一般社団法人
日本メディア英語学会

Japan Association for Media English Studies

16th Annual Convention

October 11, 2026

日本メディア英語学会

第16回（通算第68回）年次大会

2026 年 10 月 11 日（日）

於 大阪電気通信大学 寝屋川キャンパス J号館

【予稿集】

一般社団法人 日本メディア英語学会

http: //james.or.jp/

一般社団法人日本メディア英語学会

第 16 回(通算第 68 回) 年次大会 プログラム

テーマ: メディアと真正性

9:30–	**受付開始** 参加費(昼食・交流会費,予稿集代含む) 本学会および提携学会の会員: 3,000 円 / 非会員 4,000 円 / 学生 1,000 円 ※ただし開催校の教職員・学生は参加費無料 (＊発表者は機器の接続チェックをお願いします)			
	J-308	**J-307**	**J-306**	**J-305**
10:00 -10:30	”Generating Students’ Personal and Affective Involvement and Improving Students’ Interactional Skills by Developing and Using Humanistic Tasks” Sakae Onoda (Juntendo University) 司会:三田 弘美	「AI 時代でも通訳は ヒトがよいのか ー利用者がヒトの 通訳を好む理由」 高橋 絹子 (関西大学) 木村護郎クリストフ (上智大学) 司会:武藤 輝昭	「字幕翻訳における 訳出判断の構造 ー日本人学生と 留学生の比較ー」 南津 佳広 (大阪電気通信大学) 春木 茂宏 (近畿大学) 春口 淳一 (大阪産業大学) 司会:宮原 淳	「英語教育・メディア 研究分科会実践報告 ー教科書分析から見えて きた多様な方向性ー」 ＜英語教育・メディア研究 分科会＞ 原 功 (中央大学) 吉原 学 (慶應義塾大学) 畠山 由香子 (お茶の水女子大学) 佐藤 文子 (中央大学) 佐藤 あずさ (早稲田大学)
10:35 -11:05		「建築学専攻の学生を対象 としたリスニング・スピーキ ングの英語授業実践報告 ーウォームアップ活動を通し てアウトプットの促進を目指 す」 恒安 眞佐 (芝浦工業大学) SANG Beijia (芝浦工業大学) 司会:武藤 輝昭	「文学的空白」を埋める メディアとしてのアニュアル: 1830 年代における女性の 文学生産性と主体化」 杉村 寛子 (大阪電気通信大学) 司会:宮原 淳	
11:05 -11:15	休憩＆移動(10 分)			
11:15 -12:15	**特別講演 (J 号館 3F J-307)** **演題:「メディア英語の奥行きの深さに魅せられて」** **講師: 石上文正 (人間環境大学・日本メディア英語学会名誉会員)** **司会:山内 圭**			
12:15 -12:35	休憩＆移動 (20 分)			

12:35 -14:05	**昼食交流会** **J 号館 1F 学生交流ラウンジ** （※ 13:55-14:05 写真撮影）			
14:05 -14:25	休憩＆移動（20 分）			
14:25 -15:25	（基調講演のみの参加者：13:30 受付開始） **基調講演（J 号館 3F J-307）** **演題：「『移民不安』はどこから生まれるのか** **ーメディア、排外主義、共生社会のリアリティ」** **講師： 毛受敏浩** **（関西国際大学客員教授 / 公益財団法人日本国際交流センター前執行理事 /** **JICA外国人材受入・多文化共生分野支援委員 / JP-MIRAI理事・シニアアドバイザー）** **司会：仲西 恭子**			
15:25 -15:45	休憩＆移動（20 分）（＊発表者は機器の接続チェックをお願いします）			
	J-308	J-307	J-306	J-305
15:45 -16:15		「トランプ劇場は 西部劇か？」 石上 文正 （人間環境大学） 司会：吉原 学	「Philip Seargeant 氏の 物語論的議論に基づく日本 社会分析 ー英雄の誕生とガスライティングの蔓延に関する議論を 通じてー」 ＜メディア英語談話分析 研究分科会＞ 宮崎 康支 （福岡大学、関西学院大学） 井上 みゆき （ロイヤルメルボルン工科大学 ベトナム校）	
16:20 -16:50	「英語教育のディスコース における生成 AI の表象 ー擬人化メタファーの 分析を中心に」 ＜メディア意識研究分科会＞ 宮原 淳 （岐阜聖徳学園大学） 大門 ゴーフ 裕子 （愛知淑徳大学） 石原 知英 （鹿児島大学） 井上 彩 （愛知県立芸術大学） 樗木 勇作 （愛知淑徳大学） 福本 明子 （愛知淑徳大学） 中村 文人 （愛知淑徳大学）	「リメイクドラマのマルチ モーダル分析からみる ジェンダー観の比較」 冨成 絢子 （北海道大学） 司会：吉原 学	「英語によるテレビニュース における言い換え構造の 研究」 原 功 （中央大学） 佐藤 文子 （中央大学） 司会：畠山 由香子	

16:50 -17:00	休憩（10 分）（＊発表者は機器の接続チェックをお願いします）			
	J-308	J-307	J-306	J-305
17:00 -17:30	「英語公用語化を考える ー米誌 Eclectic Magazine に見る森有礼の簡易英語採用論」 ＜ビジネス英語文化研究分科会＞ 武藤　輝昭 （関西外国語大学）	「ヘッドラインと相反する視覚的意味構築 ー先住民条約法案報道のマルチモーダル分析」 仲西　恭子 （関西外国語大学） 司会：稲永　知世	「新語・語法研究分科会 実践報告」 ＜新語・語法研究分科会＞ 三田　弘美 （口語英語研究所） 田中　満佐人 （オフィス田中） 山内　圭 （新見公立大学）	

J-308 (10:00-11:05) 発表(60 分)

Generating Students' Personal and Affective Involvement and Improving Students' Interactional Skills by Developing and Using Humanistic Tasks

Sakae Onoda (Juntendo University)

The presenter will demonstrate the effective use of humanistic tasks recently developed for university English majors enrolled in a Media English course. Humanistic tasks regard learners as reflective, agentive individuals and encourage them to closely analyze the task and freely express their opinions and ideas about its theme, purpose, and components. Research in second language (L2) learning suggests that humanistic interactional materials and tasks motivate learners by fostering enjoyment, an achievable level of challenge, and intrinsic interest. They also encourage learners to engage in L2 learning both intellectually and emotionally while enhancing their interactional skills and self-efficacy (Onoda, 2022; Tomlinson, 2023).

The presentation will introduce a range of humanistic interactional tasks, including issue logs, a TV News Production Project, a job interview project, and discussions of contemporary social issues. These materials and tasks are grounded in the principles of Task-Based Language Teaching (TBLT). Through appropriate scaffolding and active learning, they emphasize meaningful communication and enable learners to use language naturally and contextually by simulating authentic, real-world situations.

The presenter will demonstrate and review each task and discuss its contribution to the development of learners' interactional skills as well as the affective dimensions of language learning. The presentation will also examine learner feedback demonstrating the positive effects of these activities and discuss practical ways in which participants can adapt and implement the materials in their own teaching contexts.

The presenter will conclude by showing a classroom video illustrating learners actively interacting with their peers, providing the audience with a concrete example of the benefits of using humanistic teaching materials and tasks. Participants will then be invited to critique the demonstrated tasks and exchange ideas on how similar humanistic tasks can be developed and adapted for their own teaching contexts.

[参考文献]

Nation, I. S. P. (2025). *The Twenty Most Effective Language Teaching*

Techniques. Routledge: New York.
Newton, J. N., and Nation, I.S.P. (2023). *Teaching ESL/EFL Listening and Speaking*. Routledge: New York.
Onoda, S. (2012). *Self-regulation and its Relation to Motivation and Proficiency*. Unpublished doctoral dissertation, Temple University. https://scholarshare.temple.edu/items/72c4c1d3-37d6-4ccd-9d3e-c05e5247e093
Onoda, S. (2022). Enhancing Creative Thinking, Critical Thinking, and Interactional Skills Through Problem-solving Group Projects Among Undergraduate English Majors in Japan. *3L:Language, Linguistics, and Literature: The Southeast Asian Journal of English Language Studies*, 28(2), pp. 1-17. DOI: http://doi.org/10.17576/3L-2022-2802-01
Tomlinson, B. (ed.) (2023). *Developing Materials for Language Teaching* (3rd edition). Cambridge: Cambridge University Press.

J-307（10:00-10:30）　　発表（30 分）

AI 時代でも通訳はヒトがよいのか － 利用者がヒトの通訳を好む理由

高橋絹子（関西大学）
木村護郎クリストフ（上智大学）

本発表では、AI 時代における通訳者の利用に関して行った調査の結果を報告する。高橋（2023, 2024）の通訳者を対象にしたインタビュー調査の結果では、AI が出てきてもヒトの通訳は AI にとって代わられることはないと報告している。では実際に通訳サービスを利用する側は、どのように考えているのであろうか。このことを探る目的で、2026 年の 3 月から 7 月にかけて国際的な場面で働く 10 人のビジネスパーソンにオンラインによるインタビュー調査を実施した。その中でどのような場面でヒトの通訳者を使い、どのような場面で AI の通訳を利用しているのか質問した。

その結果、全員が経営会議など重要度の高い会議では、ヒトの通訳を利用していることが判明した。なぜならば、役員が意思決定を行う際には、信頼性や訳者の責任の問題から AI ではなくヒトが訳したものに基づいている必要があると言う。また会議の公式度が高かったり、参加者が経営の幹部の場合であったりする際には、ヒトの通訳を使うと言う。これにはロジスティックスの問題もあり、例えば、予期せぬ自然災害が発生したり、ネット回線に問題が生じたりした場合にも、ヒトであれば対応が可能であるとのことだ。

次に日本人の発話の特徴に起因する理由があげられた。特に内輪で、ディスカッションのような対話形式で会議が行われる場合である。その場合には、「あれ」「これ」と言った指示語が多く、主体が誰であるかも明確でないことも多いと報告された。そして社内用語や専門用語はもとより、それを省略した言い方も多いと言う。これらの訳出は AI にはほぼ不可能であるとのことであった。この点、ヒトであれば理解して伝えることが可能であると報告している。さらにヒトの通訳の場合、ニュアンスまで訳し、何が言いたいのかを伝えてくれると言う。

他にも具体例が報告され、本調査の結果からは、少なくとも現時点では経営会議など、社運を左右するような重要な場面においては、優秀なヒトの通訳者が必要とされ、そのような場面では AI では置き換えられないと認識されている場合も存在するといえるだろう。

［参考文献］

高橋絹子（2023）「最近の通訳現場に関する報告 － オンラインと AI 通訳」日本通訳翻訳学会 第 24 回年次大会予稿集　大阪・関西大学

高橋絹子（2024）「「ビジネス通訳の現場における生成 AI 機器の利用に関する調査報告」『関西大学外国語学部紀要』第 30 号 2024 年 3 月 121-135 頁

J-306（10:00-10:30）　　発表（30 分）

字幕翻訳における訳出判断の構造―日本人学生と留学生の比較―

南津佳広（大阪電気通信大学）
春木茂宏（近畿大学）
春口淳一（大阪産業大学）

字幕翻訳では、字数や提示時間の制約により、原文の諸要素を等しく訳文に保持することは難しい。訳し手には、何を保持対象とし、どの価値を優先し、その判断をいかなる訳出操作によって実現するかという選択が求められる。この保持対象・優先価値・訳出操作の連関が、言語背景の異なる学習者の振り返り記述にどう表れるかは十分に明らかでない。

本研究では、訳出方略を操作の種類のみによって同定せず、三者の連関として捉え、日本語を母語とする日本人学生と、日本語を非母語とする外国人留学生の訳出判断を比較した。両群に映画二作品を用いた英語から日本語への字幕翻訳課題と振り返りタスクを課し、得られた記述を理由・目的・制約・操作を表す最小の判断単位に分節・コード化した。

分析の結果、日本人学生では、原文の言語形式に符号化された意味内容よりも、登場人物の感情、発話意図、含意、対話機能など、文脈に基づいて解釈される語用論的意味・機能の保持を優先する記述が両作品で多かった。留学生では、符号化された意味内容を保持して日本語として成立させる判断と、語用論的意味・機能を汲み取る判断との双方に記述が分散した。さらに、日本人学生では、訳出操作を語用論的意味・機能の保持と結びつけて説明する記述が多かったのに対し、留学生では、削除・短縮・言い換えなどの操作は記されても、保持対象や優先価値との連関が明示されない例が多かった。

ただし、両群の英語原文の理解力が同等とは限らず、日本人学生は母語の日本語で、留学生は非母語の日本語で訳文と振り返り記述を産出しているため、言語的負荷は同一でない。したがって、本結果は翻訳能力の群差を直接示すものではなく、異なる言語的条件のもとで記述に表出した訳出判断の差として位置づけられる。以上は、同一の操作を直ちに同一の方略とみなさず、三者の連関から訳出判断を捉える必要性を示す。

[参考文献]

Carston, R. (2002). *Thoughts and utterances: The pragmatics of explicit communication*. Blackwell.

Díaz Cintas, J., & Remael, A. (2021). *Subtitling: Concepts and practices*. Routledge.

Gile, D. (2004). Integrated problem and decision reporting as a translator training tool. *The Journal of Specialised Translation*, 2, 2–20. doi: 10.26034/cm.jostrans.2004.805

Levý, J. (1967). Translation as a decision process. In *To honor Roman Jakobson: Essays on the occasion of his seventieth birthday* (Vol. 2, pp. 1171–1182). Mouton.

Molina, L., & Hurtado Albir, A. (2002). Translation techniques revisited: A dynamic and functionalist approach. *Meta*, 47(4), 498–512. doi: 10.7202/008033ar

J-305 (10:00-11:05)　　分科会(60 分)

英語教育・メディア研究分科会実践報告ー教科書分析から見えてきた多様な方向性ー

英語教育・メディア研究分科会
原功(中央大学)、吉原学(慶應義塾大学)、畠山由香子(お茶の水女子大学)
佐藤文子(中央大学)、佐藤あずさ(早稲田大学)

本分科会では、分科会プロジェクトとして 2020 年に出版された大学生用教科書『ニュース英語で4技能を鍛える―インプットからアウトプットへ―』(三修社)を題材として、大学英語教材およびその付属品について、当時執筆に関わった方々の「作り手」としての視点、実際に授業で使った教員の「使い手」としての視点、また、学生の「学び手」としての視点や、初めて同書を手に取った人の視点というように、一冊の教科書に対して様々な視点からの考察を行ってきた。その結果、同書に関して教科書の特色としてアピールするべき点や、「使い手」や「学び手」の視点から再検討を必要とする点などが浮上している。

同書に関して、作り手からは題材となる英文の選定、設問の種類と内容、1ユニットで4技能をすべて扱う上での工夫が報告され、その中で英語教科書における練習問題の研究(エクササイズ論)を進めていく必要性が確認された。このような教科書の作り手からの報告は教材開発研究として角山(2001)や須永(2006)で行われている。

使い手からは授業 1 回分で扱う分量、半期ないし通年で扱う分量、様々な大学のカリキュラムで求められている実施内容や学生などの要件にどのように適応させていくかといった指摘があった。これは McDonough and Shaw (2003)によると adaptation(教育環境に合わせて教材を改変、改作するなど「適応」させること)の問題である。嶋田(2009)においても「それぞれの学習環境に応じた最適な adaptation の手法を選択し、授業をより良いものにすること」が教員には求められていることが指摘されている。

本発表においては、分科会の実践報告と合わせて、参加者との意見交換を実施したいと考えている。年次大会の参加者の多くは大学英語教員であり、今回題材とした教科書を使用したことがある、また使用を検討したことがある人が多いことが予測され、そこでの議論は分科会のメンバー内で行われるものよりも深く、広範にわたることが期待され、今後の研究や教材開発に大いに役立つことが見込まれる。また、賛助会員である出版社の方々の参加が期待できるものと思われる。

[参考文献]

McDonough, J., & Shaw, C. (2003). *Materials and Methods in ELT: A Teacher's Guide*(2nd ed.). Oxford: Blackwell.

角山照彦. (2001). 「英語教育における音楽教材の活用ー音楽と異文化トピックを組み合わせた総合教材『ポップスで学ぶ総合英語』の開発ー」『広島文教女子大学紀要』第 36 巻. pp. 9-20.

嶋田和成. (2009). 「大学英語教材の adaptation とその必要性」『帝京大学文学部教育学科紀要』第 34 号. pp. 57-68.

須永紫乃. (2006). 「食物栄養科学生の「英語コミュニケーション」授業の教材・教科書開発の研究(1)」『駒沢女子短期大学研究紀要』.第 39 号 pp. 41-53.

日本メディア英語学会英語教育・メディア研究分科会(編著). (2020)『ニュース英語で4技能を鍛えるーインプットからアウトプットへー』三修社.

J-307 (10:35-11:05)　　発表(30 分)

建築学専攻の学生を対象としたリスニング・スピーキングの英語授業実践報告
―ウォームアップ活動を通してアウトプットの促進を目指す

恒安眞佐(芝浦工業大学)
SANG Beijia(芝浦工業大学)

本発表は、東京の理工系大学において建築学科 1 年生を対象に開講されている必修選択科目「リスニング＆スピーキング(LS)」の授業実践報告である。本コースは約 8 年前に ESP(特定目的のための英語)科目として開設され、本年度より主要科目として位置づけられたものである。毎年、春学期に開講されており、一年生のほぼ全員が履修する。主な達成目標は、学生は(1)英語で建築の基本概念を説明することができる、(2)専門用語や建築の基礎的要素を英語で言うことができる、(3)自分の英語に自信を持って相手に伝えることができる、ことである。本報告では、2026 年前期に実施された活動内容を説明する。まず建築学部の全体的な取り組みを概観した上で、メディアの一つである教材、具体的には『Basic English for Architecture: Listening and Speaking』(2018 年刊)の特徴を紹介する。その後、授業内の具体的なウォームアップアクティビティを説明し、最後に学期末に実施した簡易授業アンケートの結果を報告する。

LS コースで使用する教材は、建築系の実務で不可欠となる語彙の習得と実践的表現を中心とした全 12 ユニットで構成されている。すべてのユニットを通して、単一のプロジェクトチームが設計・建築工学・都市計画・環境・構造・歴史など多角的なトピックについて議論を展開する設定となっており、能動的な語彙力、文法知識、およびスピーキングの流暢さを養うことを目指している。授業では、専門用語や建築知識の習得に加え、発音や文法事項の再確認を行いつつ、単語練習、Describe and Draw、インフォメーションギャップ練習、Story Building、Knowledge Review などの多様な体験型タスクを取り入れた。

建築に特化した教材を使用しつつ、教員による足場かけの支援のもと、学生たちは協働学習を通じて英語でのインタラクションを重ね、習熟度の高い学生と他の学生が互いに学び合う姿が見られた。学期末の簡易アンケート結果は概ね肯定的であり、学生はウォームアップ活動へ主体的に取り組むとともに、仲間と協力して課題を遂行することができたようである。本授業実践を通じて、学生は建築に特化した英語や概念を英語で学びつつ、ウォームアップ活動を通じて、相手に伝わる英語の楽しさを経験し、英語に対して自信を持って活動に取り組んでいた。体験型タスクが自身の英語運用能力を高め、自信を深める一助となったのであれば、これほど嬉しいことはない。

[参考文献]

Horton, E., Tsuneyasu, M., Smith, C., Kamiya, H., & Roebel, M. (2018). *Basic English for Architecture Listening and Speaking*. Nanun-do.

Zuo, Y. (2024). Enhancing fluency through fun: The role of interactive activities in enhancing adult language proficiency. *Advances in Social Behavior Research*, 14, 57–62. https://doi.org/10.54254/2753-7102/2024.20042

J-306（10:35-11:05）　　発表（30 分）

「文学的空白」を埋めるメディアとしてのアニュアル：1830 年代における女性の文学生産性と主体化

杉村寛子（大阪電気通信大学）

J. S. Mill（1806-1873）や Edward Bulwer-Lytton（1803-1873）が英文学史における“an age of transition”と呼んだ 1830 年代は、18 世紀後半から 19 世紀初頭にかけて文学界を席巻したロマン主義と、ヴィクトリア朝時代の小説の隆盛との間にある、「文学的空白」の期間と見なされ、この時期に発表された詩や物語は軽視される傾向にあった。“an elegant dumpheap of factitious and overpriced trash”（McGann 247-8）であると言われている一連の文芸作品は主に女性によって書かれたもので、1820 年代に誕生し、一世を風靡した活字メディアである“literary annual”（アニュアル）にその多くが掲載されていた。アニュアルは中産階級の女性をターゲットとした“giftbook”とも呼ばれ、詩や短編小説、版画などを集めた定期刊行物である。毎年 11 月に刊行され、人目を引く豪華な装丁から装飾品としての側面を持ち、クリスマスの贈り物として人気を博した。1830 年代には 40 にものぼるタイトルのアニュアルが市場に流通していたと言われている。このように単なる消費文化の一翼を担ったにすぎないと長らく等閑に付されてきたが、近年、アニュアルは単に「消費する主体」とされていた女性に言説の機会を与え、女性を「書く主体」へと変容させる契機として機能していた可能性が指摘されている。このような研究動向を踏まえ、本発表では 1830 年代に注目し、女性による文学の生産性を高める風土の醸成に、アニュアルがメディアとして果たした役割について考えてみたい。はじめにアニュアルで活躍した Caroline Norton（1808-1877）をはじめとする女性作家（詩人）が当時置かれていた社会的状況とアニュアルの関係を概観する。次に、アニュアルからいくつかの作品を取り上げ、ディスコース分析の要素を取り入れつつ、テクスト分析によって、主題やその展開を検討し、女性作家（詩人）の書き手としての主体性の一端を明らかにする。

［参考文献］

Gardner, J., & Stewart, D.（Eds.）.（2024）. *Nineteenth-Century Literature in Transition: The 1830s*. Cambridge University Press.

Harris, K. D.（2015）. *Forget Me Not: The Rise of the British Literary Annual, 1823–1835*. Ohio University Press.

McGann, J.（2002）. *Byron and Romanticism*. Cambridge University Press.

J-307（15:45-16:15）　　発表（30 分）

トランプ劇場は西部劇か？

石上文正（人間環境大学）

アメリカのトランプ大統領の様々なメディアを通じた行為や発言が、“トランプ劇場”の様相を呈している。本発表の目的は、このトランプ劇場が、アメリカ映画の一つのジャンルである西部劇に、その物語構造の基礎が似ていることを示すことにある。

「西部劇」の定義には様々あるが、次の American Film Institute の定義は、簡にして要を得たものである：“AFI defines ‘western’ as a genre of films set in the American West that embodies the spirit, the struggle and the demise of the new frontier.” この定義では、西部劇は「アメリカ西部」が舞台として設定され、時間的設定は“the new frontier”が存在した時代ということになる。フロンティアは、入植地と未開地の境界である。そこでは、〈文明・文化 vs. 未開・自然〉、さらに抽象化すれば〈秩序 vs. 無秩序・カオス〉が混在し、その二項が激しく対立する領域である。この単純な二項対立構造は神話にも見られ、「物語構造の基礎」と呼ぶことにする。このことから西部劇とは、疑似的歴史環境のなかに無秩序が当たり前の世界として設定され、二項の闘争（struggle）が予見されるジャンルである。一般的に映画では、犯罪者、怪獣、宇宙人、ウイルス等の無秩序の象徴的行為者を登場させ、無秩序をスクリーン上に構築する。しかし、西部劇ではその構造上、無秩序が当たり前の世界である。これが西部劇の特徴である。

トランプ氏は、第１期目の選挙キャンペーンのとき、上記の二項の闘争について次の tweet の中で直接的に表現している：“This election is a choice between law, order & safety - or chaos, crime & violence.” 彼は現代のアメリカ社会を無秩序と定義し、〈無秩序＝カオス、犯罪、暴力〉を打倒し、〈秩序＝法、安全〉をもたらすことをアピールしている。彼のアメリカの状況設定は、西部劇の舞台設定に酷似し、彼の言説はそれを強化している。本発表の目的は彼の演説、コメント、宣言、法律名などの分析を通して、このことを示すことにある。

［参考文献］

American Film Institute. (n.d.). AFI’s 10 TOP 10. Retrieved August 5, 2026 from https://www.afi.com/afis-10-top-10/

Trump, D. (2016). Twitter, #ImWithYou Tue Jul 12 12:57:18 +0000 2016

石上文正・宮原淳（2018）.『トランプの選挙戦における Twitter 戦略 ―ディスコース分析、レトリ分析、トポス分析』パブフル（Kindle 版）.

バーガー, P.L.（1979）.『聖なる天蓋：神聖世界の社会学（薗田稔，訳）』新曜社.（原著 1967）

山口昌男（1975）.『文化と両義性』岩波書店.

J-306（15:45-16:15）　　分科会（30 分）

Philip Seargeant 氏の物語論的議論に基づく日本社会分析
―英雄の誕生とガスライティングの蔓延に関する議論を通じて―

メディア英語談話分析研究分科会
宮崎康支（福岡大学・客員研究員、関西学院大学・客員研究員）
井上みゆき（ロイヤルメルボルン工科大学ベトナム校・専任講師）

本発表を応募した研究分科会は、Seargeant（2020）の翻訳と精読および議論を通じて、言葉による政治家の物語の構築について考察を深めてきた。本報告はその成果の一部として、研究分科会メンバーによる 2 本の小発表を通じて、分科会における議論をメディア英語研究の多角化に寄与させようとする試みである。

第 1 発表：日本における「英雄」の誕生をめぐるディスコース

本発表では、Seargeant（2020）の第一章において描かれた、アメリカ大統領ドナルド・トランプ（第 1 期）の選出を巡る「物語」を参照しながら、日本における「英雄」の存在について考察する。日本では 2025 年に憲政史上初の女性首相として高市早苗が選出された。Kato et al.（2026）は、2026 年の衆議院総選挙における高市政権の支持は女性からのものが大きい一方で、そのリーダーシップスタイルが「男性的」であることを指摘している。本報告では、これらの知見を踏まえつつ、高市首相の就任時の英字新聞記事のディスコース分析を通じて、同氏の「英雄（ヒロイン）物語」の構築を考察する。

第 2 発表：日本社会におけるガスライティングの不可視化

本発表では、対象者に自らの判断能力や証拠を合理的に評価する能力への信頼を揺るがし、何が真実であるかを判断する際に行為者へ認識論的に依存させるガスライティング（Beerbohm & Davis, 2023）に着目する。Seargeant（2020）による政治的ガスライティングの議論を出発点に、トランプ大統領の発言と比較しながら、兵庫県知事をめぐる内部告発問題に関する記者会見を取り上げ、告発者の認識や判断の無効化をディスコース分析する。和の重視や上下関係、組織への適応を求めるような日本社会にみられる文化的規範との関連から、ガスライティングが不可視化される可能性について考察する。

［参考文献］

Beerbohm, E., & Davis, R. W.（2023）. Gaslighting citizens. *American Journal of Political Science*, 67(4), 867–879. https://doi.org/10.1111/ajps.12678

Kato, G., Endo, M., & Lu, F.（2026）. T*he Iron Lady effect? Sanae Takaichi and personalistic voting in the 2026 Japanese House of Representatives election.* APSA Preprints. https://doi.org/10.33774/apsa-2026-40v86

Seargeant, P.（2020）. *The art of political storytelling: Why stories win votes in post-truth politics*. Bloomsbury Academic.

J-308（16:20-16:50）　　分科会（30 分）

英語教育のディスコースにおける生成 AI の表象―擬人化メタファーの分析を中心に

メディア意識研究分科会
宮原淳（岐阜聖徳学園大学）、大門ゴーフ裕子（愛知淑徳大学）
石原知英（鹿児島大学）、井上彩（愛知県立芸術大学）、樗木勇作（愛知淑徳大学）
福本明子（愛知淑徳大学）、中村文人（愛知淑徳大学）

2022 年末の ChatGPT の一般公開以降、生成 AI は急速に普及し、2023 年には教育現場においても、その活用の可能性と課題が頻繁に議論されるようになった。2023 年 9 月には、生成 AI の教育現場での利活用の指針として、UNESCO が Guidance for Generative AI in Education and Research を公表した。こうした動向を背景に、教育における生成 AI をめぐる議論が活発化する中、生成 AI がいかなる言説・言語表現によって構築されているかを検討することが重要となっている。Heinsfeld and Veletsianos（2025）は、上記 UNESCO の文書を分析し、biological, reasoning/cognitive, leadership の 3 つの種類の人間的な属性を付与する擬人化メタファーが使われていることを明らかにし、そのような言説が生成 AI への過度な信頼や、技術決定論的な見解を助長する可能性を指摘している。

この知見を踏まえ、本研究は日本における教育言説として、大修館書店出版の月刊『英語教育』誌に掲載された生成 AI 関連記事と、文部科学省『初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン』を、生成 AI をめぐる教育言説の分析対象として、批判的談話分析（Critical Discourse Analysis: CDA）の観点から比較検討するものである。Fairclough（2003/2012）の CDA の枠組みに基づき、生成 AI を表現するメタファー、とりわけ擬人化表現に着目し、それらが生成 AI の教育的役割や教師・学習者との関係性をどのように構築しているかを比較分析する。

分析を通じて、実践的な教育雑誌と政策文書との間で、生成 AI の位置付けや期待される役割をめぐる言説に見られる相違を明らかにするとともに、日本の教育における生成 AI 言説が技術観や教育観をいかに形成しているのかを考察する。

[参考文献]

Fairclough, N. (2003/2012). *Analysing discourse: Textual analysis for social research*. Routledge.『ディスコースを分析する：社会研究のためのテクスト分析』（日本メディア英語学会メディア英語談話分析研究分科会訳）くろしお出版.

Heinsfeld, B. D. & Veletsianos, G. (2025). The Language on GenAI: A Critical Exploration of Personification Metaphors in UNESCO' s Guidance for Generative AI in Education and Research. *Journal of interactive Media in Education*, 2025(1): 16, 1-13. DOI: https://doi.org/10.5334/jime.983

UNESCO. (2023, updated 2026). *Guidance for Generative AI in Education and Research*. https://www.unesco.org/en/articles/guidance-generative-ai-education-and-research

J-307（16:20-16:50） 発表（30 分）

リメイクドラマのマルチモーダル分析からみるジェンダー観の比較

冨成絢子（北海道大学）

本発表では、英国ドラマ『Doctor Foster（女医フォスター 夫の情事、私の決断）』（2015 年、BBC）と、その日本版リメイク作品である『夫婦が壊れるとき』（2023 年、日本テレビ）のマルチモーダル分析を行い、それぞれのドラマで描かれた人物とその関係性について、フェミニズム的視点から読み解く。

分析対象とする作品は、夫の不倫を知った妻の復讐劇を中心とした内容である。原作者はギリシャ悲劇の『王女メディア』（エウリピデス作）から発想したことを明かしており、主人公の女性の強烈な怒りや感情を描くことで女性のステレオタイプに繋がる可能性は否定できないが、一方で彼女は経済的に自立し、自ら策略を練り行動する医師でもあり、フェミニズム的側面をもつストーリーとも考えられる（Voigts and Park-Finch, 2023）。英国でヒットした後、多くの国でリメイク作品が作られ、中でも韓国のものは高い視聴率を得た。Voigts and Park-Finch（2023）は韓国の作品に注目し、リメイク作品がどのようにその国の放送環境やドラマの伝統、社会文化に適応させていたかについて社会や文化、メディア環境の面から詳しく論じているが、テクスト分析は行っていない。そこで本研究では Voigts and Park-Finch の議論を参考にしつつ、日英のドラマの比較を中心に、日本の作品がどのようにオリジナル作品に基づいたうえで、韓国作品も参考にしながら、再構築や創作を行い、新たなドラマとして提示されたかについてテクスト分析を通して考察していく。テクスト分析は特に非言語的要素に注目し、社会記号論（Kress and van Leeuwen, 2021）を参考にしたマルチモーダル分析を行う。社会記号論は批判的ディスコース分析（CDA）（フェアクラフ, 2012）の理論に基づき、社会問題や権力関係を明らかにすることを目的として非言語的要素を含むテクストの分析を行うものである。本研究ではジェンダーに関する権力関係をフェミニズム的視点から分析することで、それぞれの作品におけるジェンダー観、結婚や不倫、家族関係などが非言語的要素を用いてどのように描かれているかを考察する。

分析ではいくつかのシーンを選択し、場面を構成する人物や物の配置、構成、使われている色、明暗をはじめ、視線、ズームの仕方や動きなどを分析し、それらが人物像やその関係性の構築にどのように影響を与えているかを議論する。さらにそうした表象がどのようなジェンダー観と結びついているか、日英における社会背景や価値観とどのように関係しているかを解き明かす。

［参考文献］

フェアクラフ、ノーマン（日本メディア英語学会メディア英語談話分析研究分科会訳）（2012）『ディスコースを分析する：社会研究のためのテクスト分析』くろしお出版［原著：Fairclough, N. (2003) *Analysing Discourse: Textual analysis for social research*. Routledge.］

Kress, G. and van Leeuwen, T. (2021[1996]) *Reading Images: The Grammar of Visual Design*. 3rd edition. Routledge.

Voigts, E. and Park-Finch, H. (2023) TV cloning as transcultural adaptation: The reformatting of the Medea Myth via *Doctor Foster*. *Adaptation*, 16(2), 185–195. https://doi.org/10.1093/adaptation/apad011

J-306（16:20-16:50）　　発表（30 分）

英語によるテレビニュースにおける言い換え構造の研究

原功（中央大学）
佐藤文子（中央大学）

テレビのニュース映像を英語教育で用いることは珍しいことではない。その理由としては、「ニュース映像には、規則的な構造と明確な話し方、視覚による支援があり、音声と映像の連携によって理解が促進される」（Cross（2009））ことが考えられる。しかし、ニュース映像の理解を難しいと感じる学生が少なくないというのが、発表者が大学の授業においてニュース映像を教材として用いる際に感じられることである。

発表者はかねてから、英語によるニュース映像を教材とする際にどのようにすれば学習者にとって適切なインプットとすることができるかという問題に取り組み、様々な観点からニュースの英語を検討してきた。今回はニュース映像の構造に着目し、見出し（リード）とその言い換え構造を分析し、教育における応用を考察する。

ニュース映像に一定の構造とフォーマットがあることは Griffin（1992）や Montgomery and Feng（2016）で指摘されており、視聴者（学習者）はそれに従って視聴行動（学習活動）を実施すればニュースが理解できるはずである。また、見出しは「読者の関心を引き、記事への関心を高める役目がある」（Dor（2003））ため、学習内容に関心を持たせる意味においても重要な役目を果たしていると思われる。

そこで、大学の英語教材として使われることの多いニュース映像内での冒頭の見出し（リード）と、その後の本文における主題文との関係を、言い換えなどの語彙面、文の長さなどの情報面から検討する。そのために、複数のメディアのニュースを分析し、言い換えに一般的な傾向があるのかどうか、またはメディアごとの特徴があるのかどうかを調査する。

［参考文献］

Cross, J. (2009). Effects of listening strategy instruction on news videotext comprehension. *Language Teaching Research* 13,2. pp. 151–176

Dor, D. (2003). On newspaper headlines as relevance optimizers. *Journal of Pragmatics* 35. pp. 695–721

Griffin, M. (1992). Looking at TV News: Strategies for Research. *Communication 13*, pp. 121-141

Montgomery, M., and Feng, D. (2016). 'Coming up next' : The discourse of television news headlines. *Discourse & Communication vol. 10*(5). pp. 500-520

J-308 (17:00-17:30)　　分科会(30 分)

英語公用語化を考える―米誌 Eclectic Magazine に見る森有礼の簡易英語採用論

ビジネス英語文化研究分科会
武藤輝昭(関西外国語大学)

近年、急速なグローバル化と IT 化の進展により、国際的な交流・交渉・折衝は、ビジネスの場に限らず日常生活の中でも容易かつ頻繁に行われるようになっている。こうした場面において、英語は共通言語として重要な役割を担っており、コミュニケーション手段としての必要性は一層高まっている。

現在、英語を公用語または事実上の公用語とする国・地域は、全世界で 58 カ国および 21 地域に及ぶ。日本においても、近年、楽天やファーストリテイリングなど一部企業による英語の社内公用語化が進められており、英語公用語化をめぐる議論は、現代的な課題として改めて注目されている。

本分科会発表では、英語公用語化に潜在する思想的背景と諸課題を検討し、その妥当性について考察する。とりわけ、英語公用語化論の先駆者とされる森有礼(1847–1889)の簡易英語採用論に焦点を当て、その歴史的意義と実像を明らかにすることを目的とする。

本発表で主に取り上げる資料は、森と同時代の英語メディアである米誌 The Eclectic Magazine of Foreign Literature, Science, and Art の論説である。同誌は 1844 年から 1907 年にかけてニューヨーク(1898 年から 1905 年まではボストン)で発行された月刊誌であり、主として英国の主要誌から記事や論説を転載していた点に特徴がある。

森が綴字や屈折を簡易化した英語を日本に導入しようと提唱した 1873 年、同誌は“The English Language.”と題する論説を掲載し、その中で森の提案を紹介している。

本発表では、森有礼の簡易英語採用論が英語圏でどのように受け止められ、評価されたのかを検討する。特に、武藤(2025)で取り上げた米誌 Scribner’s Monthly 掲載の論説“A New Language Wanted.”と、本発表で扱う“The English Language.”を比較することにより、英語公用語化論をめぐる認識と議論の差異を明らかにしたい。“A New Language Wanted.”は、英語の簡易化に関する森の提案に協調し、概ね好意的な反応を示していた。これに対し、“The English Language.”は、英語を日本に採用しようとする森の構想を肯定的に評価しながらも、英国内の方言差による英語の通じにくさに言及しており、英語の簡易化についてはより慎重な立場を示している。このような対比を通じて、本発表では、当時の英語の拡散をめぐる視点の差異と、英語簡易化への評価の温度差を考察したい。

[参考文献]

“The English Language.” (1873). *The Eclectic Magazine of Foreign Literature, Science and Art, ns 80*, 766.

Mori, Arinori. (1872, May 21). [To William D. Whitney].

“A New Language Wanted.” (1873). *Scribner’s Monthly: An Illustrated Magazine for the People, 5*, 770-71.

K. F. (1934) 「森有礼の英語を国語とする論」英語青年第 72 巻 (pp. 8-9)

川澄哲夫編(1978)「英語教育論争史」鈴木孝夫監修、資料日本英学史第 2 巻、東京:大修館書店

武藤輝昭 (2025)「英語公用語化を考える―米誌 Scribner’s Monthly に見る森有礼の簡易英語採用論」日本メディア英語学会第 15 回年次大会ビジネス英語文化研究分科会報告

J-307 (17:00-17:30)　　発表(30 分)

ヘッドラインと相反する視覚的意味構築 ―先住民条約法案報道のマルチモーダル分析

仲西恭子(関西外国語大学)

オーストラリア先住民への支援策は政権交代のたびに改廃が繰り返され、格差是正は進んでいない。この状況を打破すべく、先住民の意見を立法と行政に反映させる常設機関「VOICE」の設置の是非を問う国民投票が 2023 年にアルバニージー政権主導で実施されたが、否決に終わった。しかし、ヴィクトリア州は州の先住民議会との対話を継続し、2025 年 10 月に州として初となる先住民条約法案を可決させた。

本研究では、この法案可決報道において、ヘッドラインの Landmark Treaty (画期的条約) という言語表現に対し、視覚的記号資源がいかなる意味を構築し、視聴者をどのような解釈へ導くのかをマルチモーダル分析で明らかにする。

分析対象には、チャネル7の『7 News』の映像データを用いる。分析手法には、Kress and van Leeuwen (2021)が提唱する社会記号論的枠組みを採用し、画面内の行為・空間配置・色彩といった視覚要素が構築する意味を分析する。また、CGイメージ等に含まれる物体の動的要素(movement)を捉えるため、van Leeuwen (2021)のアプローチを補完的に導入する。

おもな分析の結果だが、アングルやショットの距離、視線のベクトルにより、州首相および先住民と視聴者との「やや遠い」関係性が表象されていた。画面デザインにおいては、「集い(assembly)」を意味するアボリジナルの人々の伝統的な円形モチーフや旗のデザインが用いられ、彼らを視覚的に表象する社会記号論的なリソースとして機能していた。フレーミングにおいては、放送局ロゴである/7/の鋭く勢いのある斜線が「視聴者」と「条約支持派」の境界を視覚化するとともに、テーマに応じた視線誘導の役割を果たしていることが分かった。そして最も重要なことに、今後の条約の手続きについては映像効果(光、彩度、スローモーション、二重写し)により懐疑的な印象が構築されており、Landmark Treaty と表題する肯定的なヘッドラインの言語表現とは相反する、視覚的意味構築がなされていることが分かった。

[付記] 本研究は、JSPS 科研費(課題番号:JP26K16529)の助成を受けたものである。

[参考文献]

一次資料

7NEWS Australia. (2025, October 31). *Landmark treaty law passed by Victorian parliament with historic scenes of celebration*: Melbourne & Victoria news [Video]. YouTube. https://www.youtube.com/watch?v=gGy2w2ns3Go&list=WL&index=3

参考文献

Kress, G.,& van Leeuwen, T. (2021). *Reading Images: The grammar of visual design* (3rd ed.). Routledge.

Parliament of Victoria. (2025, October 31). *Statewide Treaty Bill passed by Parliament*. https://www.parliament.vic.gov.au/news/society/treaty-bill-passed/

van Leeuwen, T. (2021). The semiotics of movement and mobility. *Multimodality & Society, 1*(1), 97-118. https://doi.org/10.1177/2634979521992733

J-306 (17:00-17:30)　　分科会(30 分)

新語・語法研究分科会実践報告

新語・語法研究分科会
三田弘美(口語英語研究所)、田中満佐人(オフィス田中)、山内圭(新見公立大学)

新語・語法研究分科会は、1959 年に設立された日本時事英語学会(現・日本メディア英語学会)において 1997 年に発足した。以来、年 6 回の例会を継続してきたが、コロナ禍を契機に開催形態を見直し、ハイブリッド形式で年 3 回の例会を実施してきた。2025 年度からは、参加の利便性を考慮し、オンライン(Zoom)による開催へと移行している。

本報告では、2026 年 7 月 4 日の分科会で取り上げられた語彙を中心に、時事性や語用的意義を有する語を抽出し、その特徴を整理する。まず、新語の定義および主要な造語法(混成・短縮・派生・転用など)について簡潔に触れ、分析の前提を示す。続いて、対象語の初出時期や出現背景を確認し、メディアや SNS における使用事例をもとに語彙的広がりを考察する。また、語の運用が示す言説的傾向にも目を向け、社会的文脈との関連を踏まえた観察を行う。以上を通じて、分科会での議論内容を共有し、新語研究の一端を報告する。

1) AI brain fry,　The death of SaaS,　prompt injection
2) dark+名詞,　shadow+名詞,　soft+名詞
3) dogfishing,　slopaganda,　quietcation
4) Japanese walking,　a-to-b gal
5) day-glo,　extremophile, rubber tramp(s)

[参考文献]

Bauer, L. (1983). *English Word-Formation*. Cambridge University Press.
Burgess, G. (2009). *The Dating Detox.　AVON*, a division of HarperCollins Publishers Ltd.
Crystal, D. (2003). *The Cambridge Encyclopedia of the English Language*. Cambridge University Press.
Plag, I. (2018). *Word-formation in English* (2nd ed.). Cambridge University Press.
Zeigler, G. (2010). *Travels with Max: In search of Steinbeck's America fifty years later*. MaxBooks.
須永 紫乃生. (1999). 英語の造語メカニズム―新語の語形成の場合. 駒沢女子短期大学『研究会報』, 16(16), 16.
須永 紫乃生. (2007). 新語の語形成の短縮傾向に関する展望. 駒沢女子短期大学『研究会報』, 40, 61–67.

［ベルクテスト］

VELC Test®

Visualizing English Language Competency Test

日本人大学生の英語力を、測る。診る。伸ばす。

日本人大学生のために開発された英語力診断テスト

テスティング・英語教育の専門家が
約5,000人の日本人大学生の協力のもと、
Rasch model（ラッシュモデル）に基づき開発した、
シンプルで信頼性の高い英語力診断テストです。

VELC Test が選ばれる 4 つの理由

日本人大学生に最適化
日本人大学生のデータに基づき設計されたテストです。
大学での活用に最適です。

信頼性の高い測定
Rasch model に基づく項目設計により、
高い信頼性と弁別力を実現。学力の変化も正確に捉えます。

詳しい診断
技能別・項目別に細かく分析。
「できた／できなかった」だけでなく、
間違えた原因まで把握できます。

学びを継続的に可視化
e ポートフォリオで経年的に管理。
英語力の伸びを可視化し、学習のモチベーション向上につなげます。

実施方法は 2 タイプから選択可能

VELC Test® PP（紙版）

実施方法	マークシート方式
試験時間	70 分
問題数	120 問（リーディング・リスニング）
実施形態	団体一斉受験
結果通知	マークシート到着の翌日中に eポートフォリオで確認可能
受験料	800 円（税抜）／1 名

VELC Test® PP 受験の様子（イメージ）

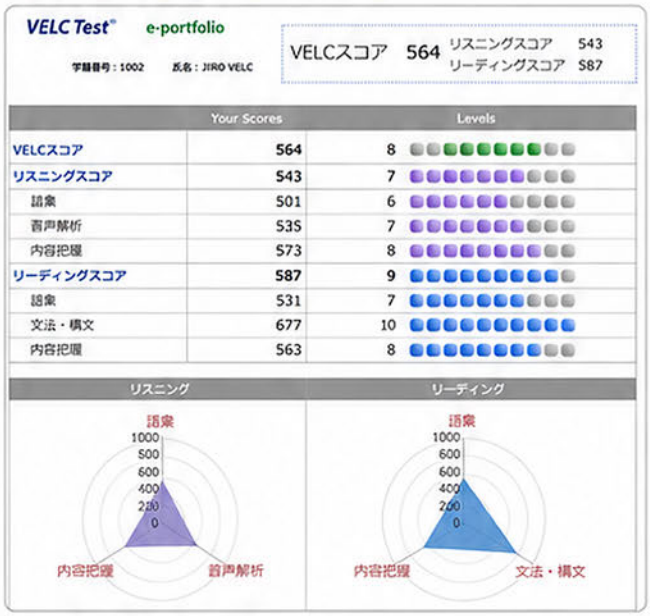
VELC Test® Online（オンライン版）

実施方法	インターネット受験
試験時間	通常：70 分　短縮：55 分
問題数	通常：120 問　短縮：90 問（リーディング・リスニング）
実施形態	個別または団体受験（ID一括発行）
結果通知	試験実施の翌日中に eポートフォリオで確認可能
受験料	900 円（税抜）／1 名 ※年間 500名以上のご利用で 800 円（税抜）／1 名

VELC Test® Online 受験の様子（イメージ）

eポートフォリオ ―人ひとりの「英語のカルテ」―

受験結果をオンラインで確認・管理。
学習の改善と英語力の伸長を支援します。



- ✓ 技能別・項目別の得点と正答率を表示
- ✓ 弱点分析や学習アドバイスを提供
- ✓ 経年的な英語力の変化をグラフで可視化
- ✓ 学生の主体的な学習とモチベーション向上を支援

※画面は実際の e ポートフォリオの一例です。

大学での活用例

プレースメント・到達度測定
入学時のクラス分けや
カリキュラム編成、
到達度の把握に最適です。

学習効果の検証
授業やカリキュラムの
効果検証に活用し、
教学改善につなげられます。

個別学習の支援
学生一人ひとりの弱点を把握し、
学習アドバイスで
自主学習をサポートします。

経年的な英語力管理
継続受験により、
英語力の伸びを長期的に
可視化できます。

学生のモチベーション向上
自分の成長を実感できるため、
学習の意欲と
継続につながります。

VELC研究会事務局
（株式会社 金星堂内）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-21
Email　info@velctest.org
Tel　03-3263-3828
Fax　03-3263-0716

VELC Test 公式サイト
https://www.velctest.org/

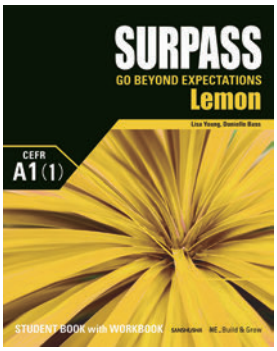
4 技能総合コースブック

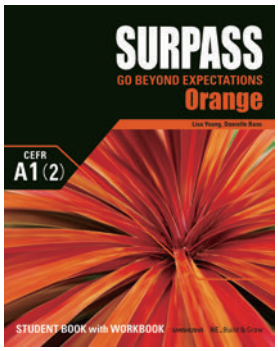
「知識」を、「使える英語力」へ。

初級から中上級まで、確実なステップアップを可能にする全 4 レベル・8 冊体系

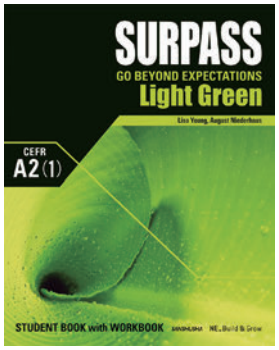
バランスの良い 4 技能設計	CEFR 準拠	一歩ずつ確実に
日常会話からアカデミックな課題まで包括的にカバー	学生の習熟度に合わせることが可能な段階的コースブック	スモールステップで、着実に定着苦手意識を克服へ導くコース設計

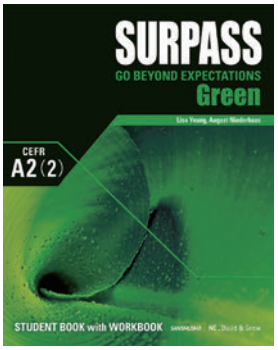
CEFR A1



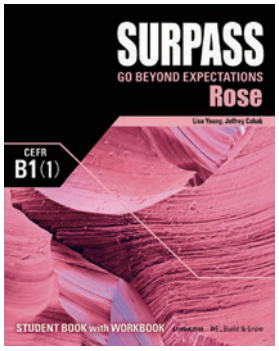


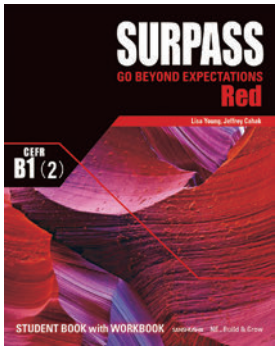
CEFR A2



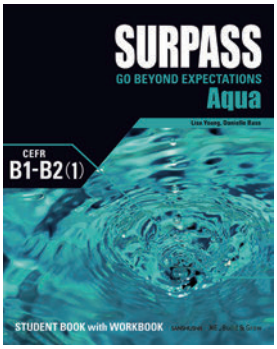


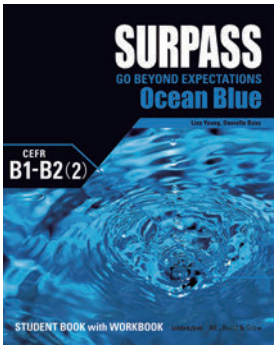
CEFR B1

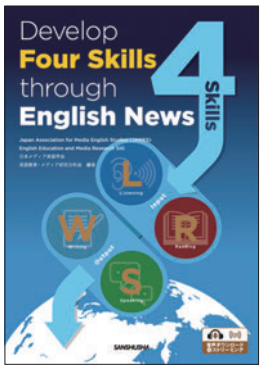




CEFR A1







ニュース英語で 4 技能を鍛える

日本メディア英語学会　英語教育・メディア研究分科会 編著

- 英語ニュースを通して情報をインプット，アウトプットへの展開を目指した総合教材。
- ニュース記事の語彙レベルは，4000 語でのカバー率 60% 以上（平均 67.4%），CEFR B2 でのカバー率 69% 以上（平均 75.9%）。
- 科学や環境など幅広いジャンル選定。5W1H の質問から Yes/No とその理由までアウトプットできるよう展開。

SANSHUSHA
〒 150-0001　東京都渋谷区神宮前 2-2-22
TEL 03-3405-4511　text@sanshusha.co.jp

SEIBIDO 2027 年度 New Titles 大学英語教科書 新刊のご案内

■総合英語 コースブック	**Live Horizons Starter【Student's Book】** 角山 照彦／ Live ABC ｜2,970 円(税込) LINGUA PORTA	映像付レベル別コースブック入門編
	Live Horizons Starter【Workbook】 角山 照彦／ Live ABC ｜550 円(税込)	Starter 対応の自学・演習用ワークブック
	Live Horizons Book 3【Student's Book】 角山 照彦／ Live ABC ｜2,970 円(税込) LINGUA PORTA	映像付レベル別コースブック上級編
	Live Horizons Book 3【Workbook】 角山 照彦／ Live ABC ｜550 円(税込)	Book 3 対応の知識定着ワークブック
■TOEIC® L&R 総合対策	**スキルと解法でスコアアップ！TOEIC® L&R TEST 中級編** ヒロ前田 ／ Ross Tulloch ｜2,750 円(税込) LINGUA PORTA	TOEIC®対策エキスパート 2 名による 決定版テキスト誕生
	GUIDING STARS FOR THE TOEIC® L&R TEST 500 **TOEIC® L&R TEST 500 点突破への道しるべ** LINGUA PORTA 和久 健司 ／ 安倍 佳子 他 ｜2,640 円(税込)	500 点の壁を越える、基礎から実践の 二段階構成
■ニュース・オンライン 映像教材	**CBS NewsBreak 8** **CBS ニュースブレイク 8** 熊井 信弘 ／ Paul Daniels ／ Stephen Timson ｜2,860 円(税込)	好評の CBS ニュース映像で最新のアメリカ 社会とアメリカ人の目を通した日本を知る
■時事英語	**Meet the World 2027 -English through Newspapers-** **メディアで学ぶ日本と世界 2027** 若有 保彦 ｜2,420 円(税込)	英字新聞を初めて読む学習者や、長文が苦手 な学習者にも配慮した時事英語入門テキスト
■社会問題・地球環境 健康・ライフスタイル	**Designing Tomorrow -Science, Society, and the Future** **We Are Building- 未来をデザインする -科学と社会から考えるこれから-** Brian Harrison ｜2,310 円(税込)	環境・社会・日常生活・科学技術のテーマに 切り込む。精読を通じて思考力を養う
■科学・理工系英語	**Breakthrough Science** **知的好奇心が広がるサイエンス** 田中 博晃 ／ Alan Hauk ｜2,310 円(税込)	身近な科学や最先端科学の話題英語を 学ぶ
	Fundamental Science in English Ⅰ Plus **理工系学生のための基礎英語 I Plus** LINGUA PORTA 亀山 太一 他（COCET 単語集準拠） ｜2,750 円(税込)	理工系学生のための好評テキストシリーズ 第 3 弾, オンライン課外学習にも対応
■ディスカッション	**Two Sides to Every Discussion 3** **英語で考え、英語で発信する 3** Jonathan Lynch ／ 委文 光太郎 ｜2,310 円(税込)	身近なテーマで議論が弾む! 初級用ディスカッション教材
■英作文 パラグラフライティング	**Smart Writing 2: Beyond the Basics** **はじめてのパラグラフ・ライティング 2** 仲谷 都 ／ 吉原 学／ Paul Underwood ｜2,420 円(税込)	「型」を身につけ、パラグラフとエッセイ ライティングの力を養う
■スポーツ・健康	**English for Athletes** **アスリートのためのコミュニケーション基礎英語** EC 佐藤 明彦 ／ Peter Quinn ｜2,750 円(税込)	日常の場面で役立つ英語を楽しく学べる スポーツコミュニケーション教材
■観光英語 ホスピタリティ	**Hospitality Communication in Action** **インバウンド時代のホスピタリティコミュニケーション** EC 蘓 寛美 ／ 福井 美奈子 他 ｜2,860 円(税込)	インバウンド時代の実践的ホスピタリティ 英語コミュニケーション教材

株式会社 成美堂 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490
URL https://www.seibido.co.jp e-mail: seibido@seibido.co.jp
●見本テキストをお送り申し上げます。電話、メール、弊社のホームページ等からお申込みください。

語学学習支援システム《キャラボ エムエックス》

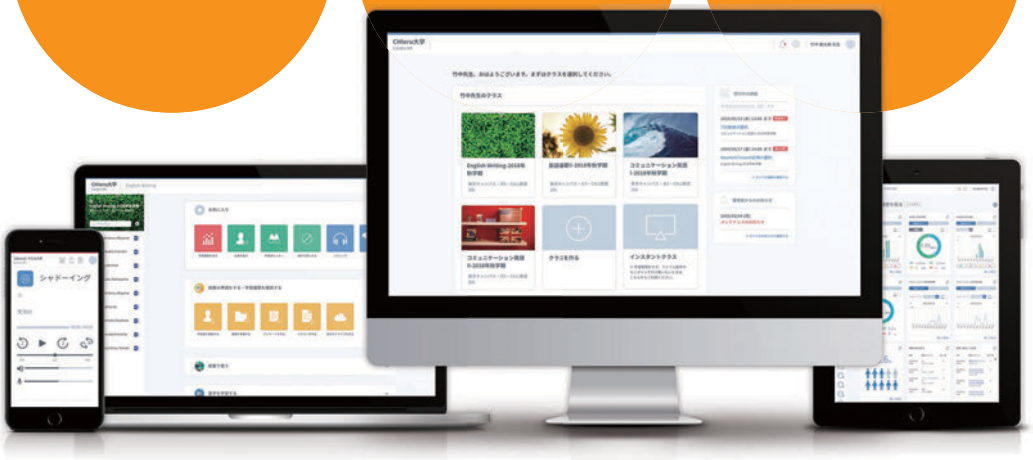
CaLabo® MX

製品情報ページ
QRコード

語学4技能の学習支援

導入コスト運用負荷の低減

学習履歴を一元管理



BYOD 対応、ブラウザベース、クラウド型のシステムで授業内の PC 学習も、授業外のスマホ学習も一元管理。

家庭での PC 学習

学校の対面学習

移動中にスマホ学習

特長 1 音声認識技術を利用したシャドーイング自動採点

シャドーイング音声を自動採点し、単語に赤入れ。
苦手な発音を視覚的に確認でき、意識的に取り組めます。

特長 2 AI を活用した機能「英文要約評価」

学習者の英文要約を AI が評価＆アドバイス。解答例も提示します。

特長 3 AI を利用した教材作成・問題作成支援

Text to Speech / Speech to Text による教材作成支援や、
AI による部分ディクテーション問題（穴埋め）作成支援。授業準備の負荷を軽減します。

CHieru
チエル株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー22F
TEL:03-6712-9721　E-MAIL:chieru-sales@chieru.co.jp

NIKKEI Asia

アジアの“本当の今”をお伝えする、
日本経済新聞社の英文メディア「Nikkei Asia」
ニュースを通じて学生様の好奇心を刺激し、
グローバルな視点を養うお手伝いをいたします

世界のトップ30大学のうち8校が、
アジアでも特に複雑な国々の政治や政策に関するインサイトを活用しています

出典：QS World University Rankings 2026

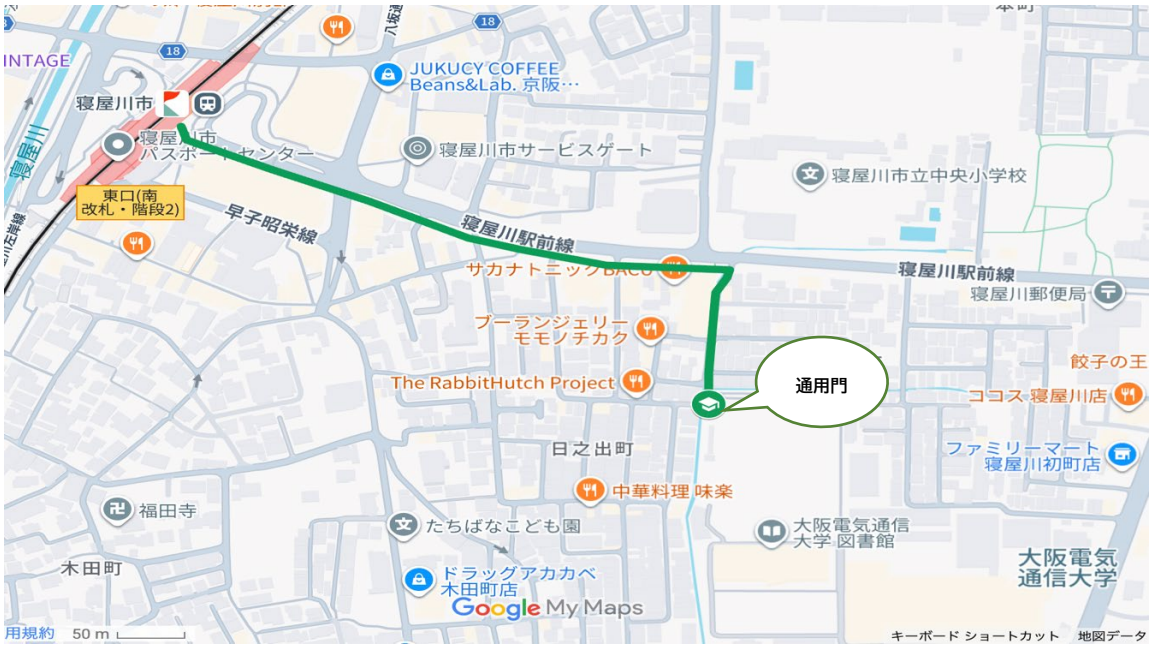
詳しくはこちら

お問合せ：
日経メディアマーケティンググローバル事業室　Nikkei Asia 担当
nikkeiasia@nikkeimm.co.jp

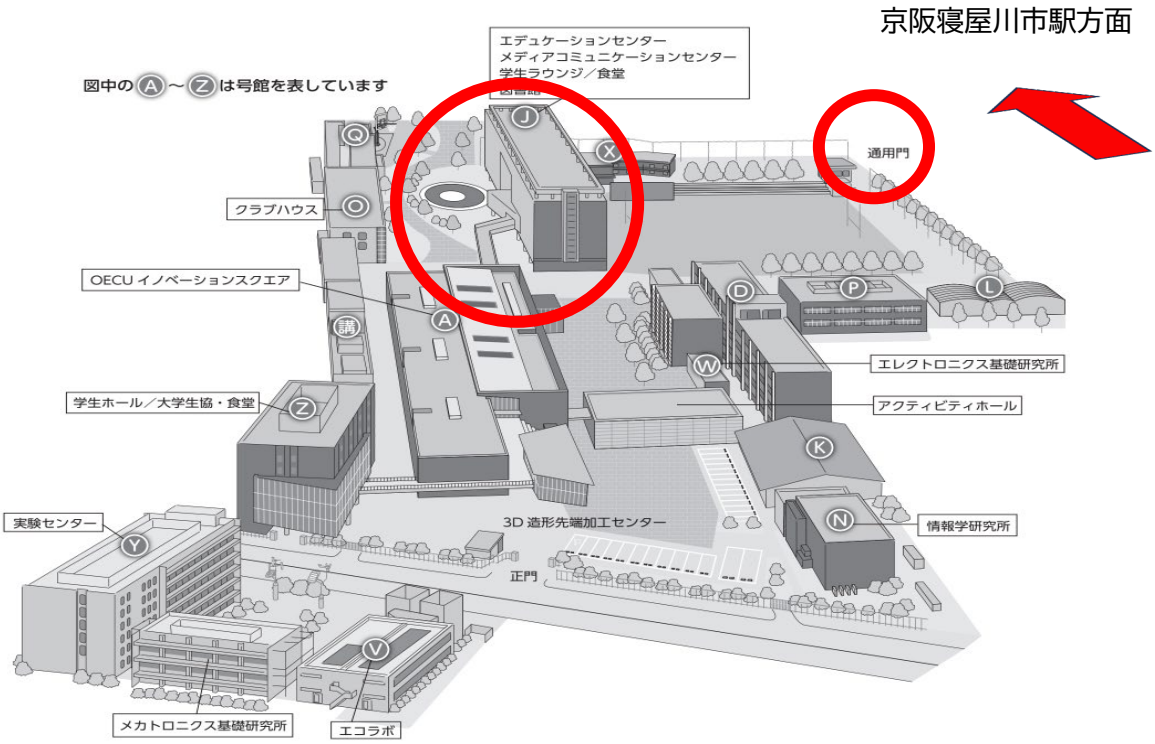
大阪電気通信大学寝屋川キャンパスまでのアクセス

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町 18-8

京阪本線寝屋川市駅下車［急行(快速急行)停車駅］
東口より出て、通用門へお越しください(※徒歩 7 分(公式))



大阪電気通信大学　寝屋川キャンパス　配置図



大阪電気通信大学

寝屋川キャンパス

大会会場へのアクセスマップ

大会会場
J 号館

京阪寝屋川市駅からは、通用門へお越しください。

ご来場の皆さまへ

1	京阪寝屋川市駅からは、**通用門**へお越しください。
2	通用門からグラウンドの**左右どちらかのルート**で **J 号館**へお進みください。
3	**正門**からもご来場いただけます。（補助ルート）

周辺施設への駐車はご遠慮ください。
ご来場には公共交通機関をご利用ください。

指定場所以外は喫煙禁止です。
喫煙所の位置は地図内をご確認ください。

日本メディア英語学会 第16回年次大会

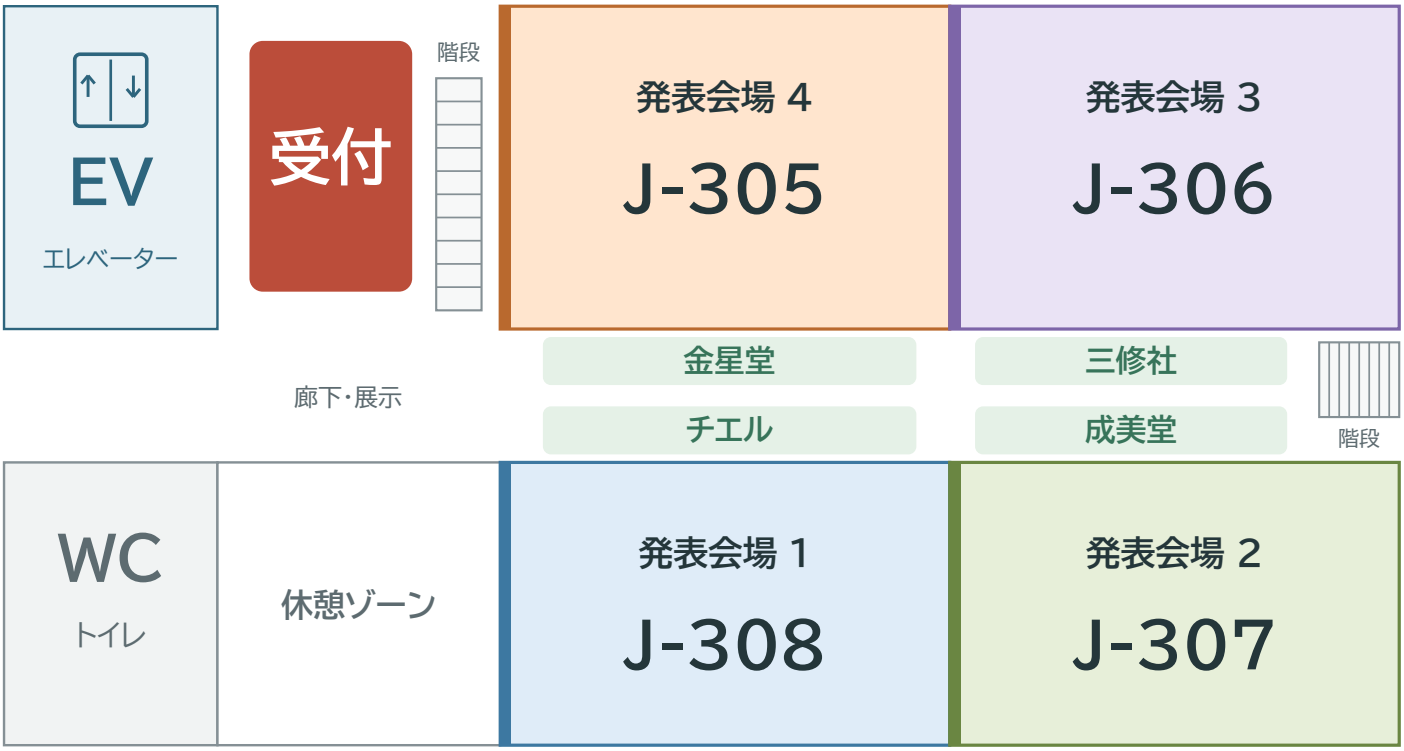
会場フロアマップ

大阪電気通信大学 寝屋川キャンパス

J号館

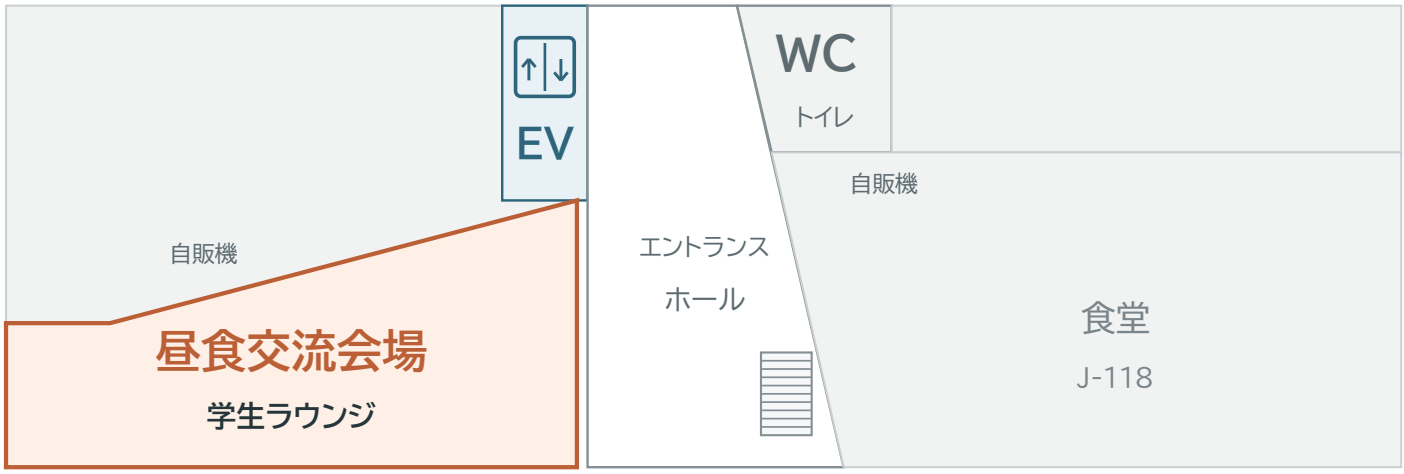
3階　受付・発表・展示

はじめに受付へお越しください。



1階　昼食交流会場

学生ラウンジ



EV：エレベーター

受付・発表は3階 ／ 昼食交流会は1階

第16回（通算第68回）年次大会運営委員会
運営委員長：南津佳広
運営委員：稲永知世・金井啓子・工藤多恵・杉村寛子・仲西恭子
・春木茂宏・武藤輝昭

令和８年10月11日

一般社団法人 日本メディア英語学会
Japan Association for Media English Studies

email: office@james.or.jp
HP: http: //www.james.or.jp/
発行人：代表理事 山内圭
編集・編成：第16回年次大会運営委員会